

第4章

2. 地域の一員としてできること①

副読本
30～33ページ

年 組 番 氏名

- 1 災害後、学校などの避難所で避難することになったとき、高校生として何ができますか。下記の状況設定から考え、話し合ってみましょう。

11月某日、まだ生徒が在校している午後3時頃、震度6強の地震が襲い、学校が避難所となりました。ライフラインはすべて途絶え、地震の揺れにより建物の倒壊や家具の転倒などから、自宅に住めない多くの地域住民が学校に避難してきました。高齢者、乳幼児、妊婦などおよそ1,000人が避難してきました。在校中の生徒は、余震が続いているため、学校に待機することになりました。

東日本大震災では、^{みやぎ}宮城県でも多くの高校生が震災当日から避難所の運営などに協力しました。多くの人たちが身を寄せた避難所で、地域の一員としてどのようなことができるか考えてみましょう。

●石巻高校の生徒による避難所運営への協力

震災当日、石巻高校は指定避難所ではありませんでしたが、臨時の避難所となり、多くの避難者を受け入れました。帰宅せずに学校に待機していた生徒たちは、避難所となった石巻高校で、清掃作業、プールからの水くみ（トイレ用）、診療所支援、避難した小学生との遊びなど、避難所運営に積極的に協力しました。

保健室に設置された臨時の診療所においては、生徒が診療を待つ人の案内、受付や問診の記録補助、清掃などを行いました。

震災から1週間後には、診療所の運営も軌道に乗り始め、患者さんが1日に350人を超える日もありました。

高校生たちは、避難所という大変な状況の中で、自分たちにできることを率先して行い、地域の一員としての大きな役割を果たしました。

